

エチオピア

2023年1月19日

海外調査部・アディスアベバ事務所

エチオピアの2020/2021年度（2020年7月8日～2021年7月7日）の実質経済成長率は6.3%となった。輸出は前年度比20%超増加するも大幅な輸入超過で、貿易赤字の構造となっている。アビィ・アハメド首相の2期目（任期5年）が2021年10月にスタートしたが、2020年11月に始まった国内の北部紛争が解決せず、ゴマなど主要輸出作物の輸出減や米国の特惠待遇措置の撤廃など、国内経済にもさまざまなかたちでマイナスの影響を及ぼしている。

■北部紛争により経済が停滞

エチオピア中央銀行は同国の2020/2021年度の実質経済成長率を6.3%と公表、前年度の6.1%からほぼ横ばいだった。分野別では、工業（7.3%）、サービス業（6.3%）、農業（5.6%）となっている。

2020年11月に発生したティグライ民族解放戦線（TPLF）と連邦政府との北部ティグライ州での紛争は解決せず、2期目となったアビィ首相も2021年10月の就任式で取り組み継続を表明した。米国は紛争での人権侵害を理由にアフリカ成長機会法（AGOA）に基づく同国への特惠待遇を2022年1月1日に終了すると発表、国内縫製産業に大きく影を落とすこととなった。

■非耐久消費財の輸入が大幅増

2020/2021年度の貿易は、輸出（電力輸出含む）が36億1,700万ドル（前年度比21.1%増）、輸入が142億8,790万ドル（2.9%増）だった。

輸出では、最大品目のコーヒー豆（構成比25.1%）が数量は前年度比8.3%減だったものの、取引価格が15.9%上昇したため、金額では6.3%増となった。コーヒー豆に次ぐ輸出額は金（18.6%）で、エチオピア国立銀行が買い取り価格を引き上げたのが要因となり、3.4倍を記録した。花き（13.0%）は前年度の構成比14.0%から若干落ち込んだものの、国際価格上昇により輸出額は11.4%増となった。輸出相手国はスイスが最大で（構成比18.2%）、輸出額の9割以上をコーヒーが占めた。2位は前年1位のオランダ（8.6%）で、花きが大半を占めている。3位は前年に続き米国（7.1%）だった。

輸入は、消費財が前年度比で36.4%増えたが、燃料、資本財はそれぞれ7.1%、5.9%落ち込んだ。中国（構成比22.9%）が最大の輸入相手国となり、次いでインド（12.4%）、米国（6.7%）となった。

■日本の対エチオピア貿易は4年連続で輸入超過

2021年の日本の対エチオピア貿易（通関ベース）は、輸出が7,087万ドル（前年比16.2%減）、輸入が8,864万ドル（17.1%減）となり、貿易収支は4年連続の輸入超過となった。

輸出では、主力の貨物自動車（トラック）が大きく減少し、前年に輸出の過半を占めていた小型貨

物自動車（5トン以下）が前年比74.1%減で1,146万ドルとなったことが響いた。他方で、例年の主力輸出製品である鉄鋼製品は、前年までの冷延鋼板から熱延鋼板へと品目の切り替えがみられ、大幅に増えた。建設機械も大きく増えており、前年は実績のなかったブルドーザー（468万ドル）に加えて、メカニカルショベル（376万ドル）が6倍となった。乗用車（ディーゼル、2500cc超）が471万ドルと倍増したのは、主に大型スポーツ用多目的車（SUV）によるものだ。エチオピアでは、国連機関や外交使節、援助機関などを中心に、悪路に強い大型SUVへの需要が大きい。

輸入では、コーヒー豆が多くを占める構造は変わらないが、それ以外の主要品目が減少したため、輸入全体の約8割をコーヒー豆が占めることとなった。コーヒー豆は引き続き、生豆（非焙煎）が主流（通常のもの6,936万ドル、カフェイン抜き136万ドル）だが、焙煎豆（100万ドル）の輸入も近年は増加傾向にある。これまでコーヒー豆に次ぐ輸入品目だったゴマは、主要産地である北部のティグライ州に端を発する紛争の影響に見舞われ、大きく減少した。そのため、2021年は花きがコーヒー豆に次ぐ2位となった。紛争はアパレル製品にも影響し、委託生産先が稼働停止を余儀なくされたことなどから、大幅な減少につながった。例えば、綿Tシャツは前年の94万ドルから2021年は1万ドルへと減っている。

表1 日本の対エチオピア主要品目別輸出入<通関ベース>

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2020年		2021年			2020年		2021年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
小型貨物自動車 (ディーゼル、5トン以下)	44,224	11,456	16.2	△ 74.1	コーヒー豆 (非焙煎)	74,442	69,356	78.2	△ 6.8
中・大型貨物自動車 (ディーゼル、5トン超20トン以下)	9,714	8,798	12.4	△ 9.4	植物の葉・枝	1,983	4,748	5.4	139.4
鉄・非合金鋼フラットロール (幅600mm以上、厚み3mm未満)	652	6,107	8.6	836.4	ゴマ	18,513	3,992	4.5	△ 78.4
鉄・非合金鋼フラットロール (幅600mm以上、厚み4.75mm以上10mm以下)	302	4,817	6.8	1,496.9	切り花 (生鮮、ブーケ用)	4,310	2,797	3.2	△ 35.1
乗用車 (ディーゼル、2500cc超)	2,416	4,713	6.7	95.1	バラ (生鮮)	2,079	2,370	2.7	14.0
ブルドーザー、アングルドーザー (自走・装軌式)	0	4,678	6.6	全増	コーヒー豆 (非焙煎のうちカフェインを抜いたもの)	1,385	1,356	1.5	△ 2.1
メカニカルショベル、掘削機、ショベルローダー (自走式・360度回転する上部構造を持つ)	626	3,762	5.3	501.3	コーヒー豆 (焙煎)	632	998	1.1	57.8
鉄・非合金鋼フラットロール (幅600mm以上、厚み3mm以上4.75mm未満)	256	3,727	5.3	1,357.9	植物の挿し穂・接ぎ穂	811	865	1.0	6.6
航空機、ヘリコプター部品	443	1,740	2.5	292.6	乾燥緑豆 (ヴィグナ・ムンゴおよびヴィグナ・ラジアタ)	56	749	0.8	1,235.2
モーターサイクル (50cc超250cc以下)	1,122	1,303	1.8	16.1	蜜ろう	422	362	0.4	△ 14.2
合計 (その他含む)	84,614	70,872	100.0	△ 16.2	合計 (その他含む)	106,869	88,641	100.0	△ 17.1

[出所] Global Trade Atlas

■通信市場開放で日英米企業連合が新規参入

エチオピアに進出する日系企業数は10社で、2021年には通信分野自由化の一環として、住友商事、ボーダフォン（英国）、ボダコム（南アフリカ共和国）、サファリコム（ケニア）、英米の公的開発金融機関（英国CDCグループ、米国際開発金融公社：DFC）が参画・協力する企業連合「グローバルパートナーシップ（Global Partnership for Ethiopia）」の通信事業への新規参入が認められ、今後10年間で80億ドルの投資を計画している。

主要経済指標

	2018/19年	2019/20年	2020/21年
①人口：1億190万人(2020/2021年)			
②面積：114万km ²			
③1人当たりGDP：1,092米ドル (2020/2021年)			
④実質GDP成長率 (%)	9.0	6.1	6.3
⑤消費者物価上昇率 (%)	12.6	19.9	20.2
⑥失業率 (%)	25.3	25.7	n.a.
⑦貿易収支 (100万米ドル)	△ 12,445	△ 10,893	△ 10,670
⑧経常収支 (100万米ドル)	△ 4,948	△ 4,401	△ 3,153
⑨外貨準備高 (グロス) (100万米ドル)	3,415	4,031	n.a.
⑩対外債務残高 (グロス) (100万米ドル)	27,076	28,894	29,537
⑪為替レート (1米ドルにつき、 エチオピアブル、期中平均)	28.1	31.3	39.0

〔注〕 年度はエチオピア財政年度 (7月8日～翌7月7日)。①：年度中央値。⑥：都市青年層失業率 (2018年6月、2020年1月)。⑦：サービスを除く財のみ。

〔出所〕 ①～⑤⑩：エチオピア中央銀行2021/2022年四半期報告 (第2四半期)、⑥：中央統計庁/国際移住機関、⑦⑧⑩：エチオピア中央銀行2020/2021年報、⑨：IMF

(お問い合わせ先)

海外調査部 中東アフリカ課

ORH@jetro.go.jp